

## 案件概要書

2024年4月23日

### 1. 基本情報

- (1) 国名：ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：チャンパサック県（77万人）
- (3) 案件名：南部地域中核病院整備計画（The Project for the Development of Southern Regional Referral Hospital）
- (4) 計画の要約：本計画は、ラオス南部4県（チャンパサック県、アタプー県、サラワン県及びセコン県）の地域中核病院としての役割を担うチャンパサック県病院において、重篤な患者に対する医療サービス提供に必要な医療施設及び機材の整備することにより、同病院の診断・治療体制の強化及び下位医療施設との連携の円滑化を図り、もって同4県の地域医療システムの強化を通じた同国における保健医療サービス強化に寄与する。

### 2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ラオスは周囲を東南アジア地域5か国に囲まれたメコン地域の要衝であり、ラオスの安定と繁栄は、ASEANの一体性を確保し、地域全体の平和と繁栄を確保するために不可欠である。我が国はラオスと良好な関係を築いており、同国は日本の国連常任理事国入りや非常任理事国入りの双方を一貫して支持するなど、日本の立場を支持することが多く、種々の国際場裡において協調関係にある。近年では、2015年に両国の関係が「戦略的パートナーシップ」に格上げされ、2021年4月の日・ラオス首脳会談で「日本・ラオス戦略的パートナーシップの前進に向けた行動計画」が設定されるなど、両国関係は益々深化している。

2016年9月に両国首脳間で合意した「日・ラオス開発協力共同計画」において共同で取り組むプログラムとして「保健医療や教育分野等での質の改善、国内格差是正」を掲げており、本計画はこれに合致するものである。我が国はラオスの保健分野において長期にわたる支援を行ってきており、現行の技術協力としては保健人材開発や南部4県においては保健医療サービスの質と病院財務管理の改善に向けた協力を進めている。ラオスがASEAN議長国を務める2024年、日・ラオス国交樹立70周年を迎える2025年と、外交的に重要な時期において、こうしたソフト支援との相乗効果を踏まえて我が国の協力を強くアピールできる計画であることから、外交的意義は大きい。

- (2) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ラオスは、東南アジアで最も保健セクターの開発が遅れている国の一つである。感染症や母子保健関連の疾患が主要な死因に残る一方、脳卒中や心疾患などの非感染性疾患による死亡も増加し、多様化する課題を抱えている。しかし、医療資源は

量・質ともに不十分で、保健サービスのカバー率を示すユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) サービスカバレッジ指数 (0-100 で示され 100 が最良) は 52 (2021 年) で ASEAN 加盟国の中で最も低い (タイ 82、ベトナム 68) (2023 年、WHO)。さらに、重篤な患者に医療サービスを提供する 3 次医療機関が中部の首都ビエンチャンに集中しており、国内における地域間格差も課題である。

首都から約 700 km 離れた南部地域では、3 次医療機関がなく、チャンパサック県病院が県内下位医療施設・近隣県 (アタプー、サラワン、セコン) からの患者搬送に対応し、制度上 2 次医療機関であるが、実質的に南部地域での 3 次医療施設としての役割を担う。他方、同病院では、施設・機材の老朽化や不足による検査・治療の制約・遅延、病床不足による衛生環境の悪化・患者プライバシーの欠如などの課題を抱え、3 次医療施設に求められる水準を満たしていない。心疾患や脳血管疾患、重症外傷への対応の遅延は患者の生命に影響する中、多くの患者が隣国タイや首都への受診・搬送を余儀なくされ、身体的・経済的負担の増大と医療サービスへのアクセス阻害要因となっている。さらに、同病院は、保健人材養成機関の臨床実習を受け入れ、南部地域の現任教育においても指導的役割を担うが、施設・機材の不足により効果的な実習環境となっていない。以上から、同病院の救急、手術部門、集中治療室などにおける医療サービス提供機能の強化は喫緊の課題となっている。地方における質の高い保健インフラ整備は、ラオス政府の「第 9 次国家開発計画 (2021-2025)」にて UHC 達成のため優先度の高い事業に位置付けられる。

### 3. 計画概要

\* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

#### (1) 計画概要

##### ① 計画内容

###### ア) 施設、機材等の内容

【施設】緊急・手術棟 (救急、画像診断部門、検査部門、新生児集中治療室、分娩部門、手術部門、集中治療室等) (延床面積約 6,500m<sup>2</sup>)

【機材】救急・手術棟に必要な医療機材整備 (X 線装置、人工呼吸器、手術台、分娩台、保育器等)

イ) コンサルティング・サービス (詳細設計、施工・調達監理、医療機材登録・管理等)

##### ② 期待される開発効果

チャンパサック県病院における年間手術件数 : 4,500 件 (基準値) → 7,020 件 (目標値) 等により、チャンパサック県 (人口約 77 万人) 及び近隣 3 県 (アタプー県 : 13 万人、サラワン県 : 46 万人、セコン県 : 17 万人) の住民に対する医療サービスの強化及び質の向上、医療従事者への卒前・卒後実習環境の改善等への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制 : 保健省 (Ministry of Health)、チャンパサック県保健局 (Champasak Provincial Health Office)

④ 他機関との連携・役割分担 : アジア開発銀行は、南部地域で保健人材養成機関

や郡病院の施設・機材整備を計画している。チャンパサック県病院は対象外であるが、本事業とともに、地域全体の保健システム強化への相乗効果が期待される。

⑤ 運営／維持管理体制：保健省及びチャンパサック県保健局の監督及び予算配賦の下、チャンパサック県病院が計画的に運営維持管理を行う。

## (2) その他特記事項

ラオスの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。日本とラオスは 2015 年に二国間関係を「戦略的パートナーシップ」に格上げし、2025 年には国交樹立 70 周年を迎えることから、今後更なる二国間関係の強化が想定される（「外交的観点」）。2023 年 5 月に公開された IMF によるラオスの債務持続性評価は「High Risk」を上回る「in debt distress」であり、返済能力の観点からラオス政府に新たな債務負担を課すことは適当ではないと判断される（「債務状況、経済的ぜい弱性」）。さらに、財政状況の悪化に伴い、保健セクターに対する公的支出が減少傾向にあり、個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対外的な支援の必要性が高まっている。特に、ラオス南部地域は、ASEAN 地域で最も開発が遅れた「開発の三角地帯」として長年認識され、ASEAN・メコン地域内の格差是正、人間の安全保障の観点から、重点的な支援を要する（「人道上のニーズ」）。本計画は、上記の観点を満たすものであり、無償資金協力の供与が適当と判断できる。

- 環境社会配慮カテゴリ分類：C
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）
- Human Wellbeing 向上への貢献：本計画は保健医療サービスの地域格差を改善し、社会全体の健康状態の改善に寄与することが期待される。

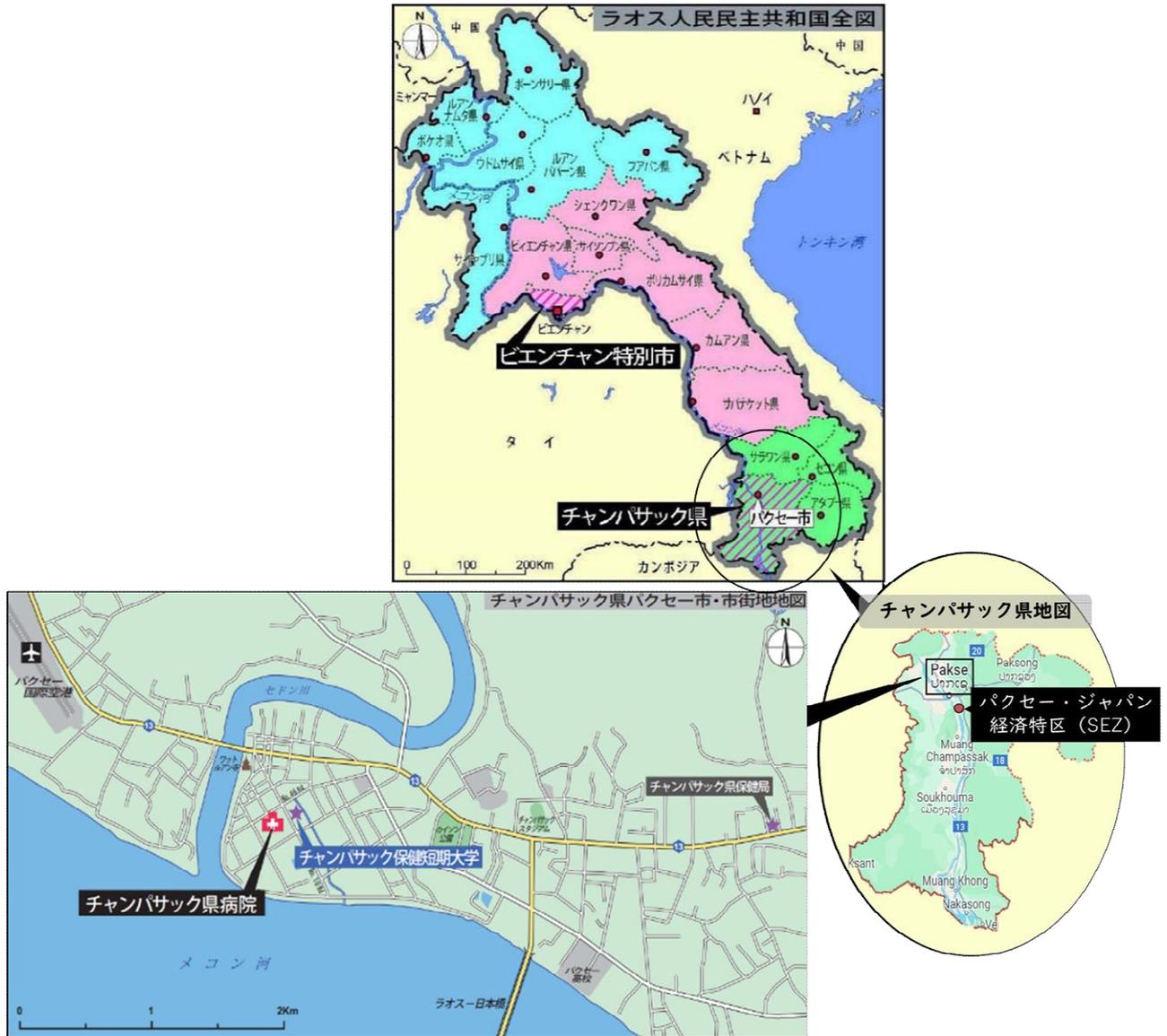
## 4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

カンボジア王国向け無償資金協力「スバイリエン州病院改善計画」（評価年度 2020 年）の事後評価では、実施機関及び機材調達業者間の契約に事業完了後のメンテナンス業務に関する条項が含まれていたことにより、機材の適切な維持管理が可能になり、実施機関に対して機材業者による助言提供の機会になったことが指摘されている。本計画は、機材調達の契約条項に定期点検を含めたメンテナンス業務を加えることを検討し、事業完了後においても機材が適切に維持管理されるよう留意する。

以 上

[別添資料] 南部地域中核病院整備計画 地図

[別添資料] 南部地域中核病院整備計画 地図



出典：ラオス人民民主共和国「セタティラート病院及びチャンパサック県病院整備計画協力準備調査報告書 ([12301305.pdf \(jica.go.jp\)](https://www.jica.go.jp/12301305.pdf))」より JICA 作成